

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園
学校関係者評価委員会
委員長 小林 美貴

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和6年5月17日 18:00~19:30(1時間半)
場所	新館3階 大会議室
出席者	<p>【委員】 小林 美貴(教育機関)、阿部 浩(教育機関)、篠崎 紗織(卒業生・業界) 竹島 由紀恵(教育機関)(オンライン参加)、遠藤 友子(業界)(オンライン参加)、 白井 幸男(業界(オンライン参加))、 欠席：文道 優妃(教育機関)、富岡 啓夫(業界)、</p> <p>【教職員】 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、福島 美奈子、池田 昌央、嶺 雄太、境田 三友紀 齊藤 彩子、高橋 淳実(事務局)</p>
配布資料	自己評価報告書(事前配布)
<p>学校作成の自己評価報告書に基づき各委員が事前評価をおこなう。 学校側の自己評価と委員による評価点数に差異がある箇所について学校側が補足説明をおこない、その後、質疑応答とした。</p>	

校長	<p>学校運営に関する変更点</p> <p>① 1日7時間授業の導入。その分木曜・土曜日を不定で休校 ② ビジネス美容科の募集停止 一定数はエステティック希望の方がいるので、今後輩出できる学科を構想している</p>
小林委員長	<p>阿部先生とともに10年目となる ビジネス美容科の件は個人的には残念に思うが、今後の展開があるとのことなので楽しみにしている</p>
阿部委員	<p>4月に岩槻商業高校から浦和商业高校に異動 教員で専門学校についての研修会を実施した。世間的なネガティブなニュースで、初担任の先生は進学先指導に不安を感じている様子があった。進路指導部もベテランであれば問題ないが、学校により差が激しいのではないかと。</p>
高橋(事務局)	<p>令和5年度自己評価結果を一覧で提示し、本校評価と委員評価の差異が開いている点を中心に説明をおこなう。</p> <p>《1》基準3：キャリア教育を実施しているか 《2》基準3：資格取得の指導体制はあるか 《3》基準4：就職率の向上が図られているか 《4》基準5：保護者との連携体制を構築しているか</p>

<p>学校側説明 (基準 3)</p>	<p>《1》 基準 3：キャリア教育を実施しているか ※投影資料使用 【説明者：嶺】 ① <u>7 時間授業の導入</u> ※昨年度試験的な導入を経て今年度から正式に実施 [目的] 学修のメリハリ、本人の自己投資の時間の確保(コンテスト・検定等) ② <u>補講実施変更</u> 補講日程をまとめて実施していたことから、欠席した場合の授業内容が理解できず、意欲低下につながるケースが課題となった。 補講日日程を年間で予め提示し、自己管理、体調管理の意識付けをおこなっている。 【境田】 遅刻、欠席の減少につながっている。 難易度の高い検定への挑戦、残って自主練習をする様子があり、学習意欲の向上の兆しが見て取れる。 《2》 基準 3：資格取得の指導体制はあるか 【説明者：池田】 ① <u>衛生面指導の徹底</u> 理容科は昨年度全員国家試験合格。一昨年度は実技試験の『衛生面』で不合格者となったため、衛生面指導の取り組みを早期からスタートし、定着させるようにした。 ② <u>動画教材の作成</u> 体調不良等の休みでも見ることができ、苦手箇所の確認や日頃の復習で勉強できるようにしている。 【説明者：齊藤】 美容科は実技試験のみ全員合格 ① <u>筆記試験は得意科目から取り組む</u> 中途半端にならないようにどこから取り組むかを明確にする ② <u>試験後の復習を徹底</u> 毎月の統一試験後、復習時間を設け勉強に向かう姿勢、環境を提供している。 今回不合格者に対しては秋の試験に向けてフォローしていく</p>
<p>学校側説明 (基準 4)</p>	<p>《3》 基準 4：就職率の向上が図られているか 委員からの事前質問：SNS を利用した就職活動のメリット・デメリット 【説明者：齊藤】 本校の後援会サロンは就職後、個々に合わせたキャリアアップをしてくれるサロンが多い。離職が多い職業であることから、長く活躍するためにも表面のキラキラした部分を打ち出している SNS で就職先を決めることは非常に危険であるため、広い視野を持って就職活動をしてほしいと考えている。 今年度よりサロン説明会から実務実習先を決める導線を作った。実務体験をすることでサロンの雰囲気や魅力を肌で感じることができ、就職につながる可能性も期待できる。</p>
<p>学校側説明 (基準 5)</p>	<p>《4》 基準 5：保護者との連携体制を構築しているか 委員からの事前意見：保護者連携が図れば、退職防止につながるのではないか 【説明者：高橋】 スクールカウンセラーの日数を増やし、他の校舎も含めて広くいきわたるように変更。 教員のメンタルケアも含めて、全員一度カウンセリングを受けるようにしている。</p>

<p>委員からの質問・意見</p>	<p>【小林委員】 今回の自己評価と委員の評価に差異があるものが多いように感じた。委員は分かりにくい箇所等を積極的に質問してほしい。</p> <p>【阿部委員】 自己評価が厳しいのではないか？合格率等も高い水準だが学校がさらに向上していくために課題をしっかりと捉えているように感じる。 補講の取り組みに関して勉強になった。高校も長年検討はしているが、教員の負担等を考えるとなかなか踏み切れない。成果が出るのを楽しみにしている。</p> <p>【工藤校長】 導入に至った経緯のひとつとして、真面目に学びたい人に対し、その環境を提供できず退学に至ることはあってはならないと感じた。</p> <p>【篠崎委員】 学びの環境を提供するという点では非常に共感できる。『会社が自分にここまでしてくれた』という感情は会社に還元される。</p> <p>【遠藤委員】 基準 5(5-16)について、求人数が減っているのか？</p> <p>【回答：境田】 求人サイト(キャリアマップ)の登録者数が少ない。 学外実習では、ただ一日の流れを見せるだけではなく、職業意識を感じられる内容を今後は入れたい。学校側が求めている内容を共有し連携することが今後必要だ。</p> <p>【白井委員】 サロン説明会の企業を選択する際に、サロン名等では分かりにくいので、HPなどの情報を入れたらよいのではないか？</p> <p>【竹島委員】 資格取得において、元々学びに向かう意欲が低い生徒に対し、モチベーション維持のためにしていることはあるか。目的があって入学しているのになぜ意欲低下するのか。抑止する方法を模索している。</p> <p>【回答：池田】 ・就職指導の早期化(サロン説明会を聞き、自身で実務実習先を選択する) ・就職意識⇒資格取得の意識に繋げている</p> <p>【回答：齊藤】 できていることにフォーカスするようにしている。(だめなことにばかり目を向けない)</p> <p>【阿部委員】 資格取得の指導方法がすぐれている教員の方法は、○×を明確にして強化する所はどこかを見極めること。100点ではなく合格点が取ればよいという考え。</p> <p>【小林委員】 肯定的な声かけをすることでクラス環境がよくなり、教員、生徒(学生)双方にいい影響しかないのではないか。成功体験を積んでいない人に対し承認することが必要。</p>
<p>次回開催予定</p>	<p>2025年2月28日(金) 18:00～</p>